

アスパラガスの露地長期どり栽培での 6月立茎前の全量一回施肥法

1 技術の要約

アスパラガスの露地長期どり栽培における6月立茎前の土寄せ時に速効性肥料と肥効調節型肥料を組み合わせた全量一回施肥法は、追肥が不要で窒素成分で20%減肥しても速効性肥料の分施より増収します。

2 技術の内容

アスパラガス長期どり栽培では収穫期間が長いため、増収を図るには養分吸収に応じた施肥が必要です。追肥労力の削減と従来の分施では難しかった長期の安定肥効とを図るため、速効性肥料と肥効調節型肥料を組み合わせた全量一回施肥法を確立しました。その内容は以下の通りです。

- (1) 肥料の組み合わせは、LP系を使う場合、10a当たり窒素成分で10kg相当を速効性肥料の硫安で施用し、残りの窒素量をLP70で施用します。IB系を使う場合は、グッドIBとエムコートS80を窒素成分で半量ずつ施用します。
- (2) 全量一回施肥法の施肥時期は6月の立茎前が望ましいが、これが困難な場合は春どりの前の4月施肥も可能です。4月施肥の組み合わせは、LP40とLPS100またはスーパーIBとエムコートS100を窒素成分で半量ずつにします。
- (3) 土壌診断に基づきリン酸とカリは必要量を単肥により施肥します。
- (4) この施肥方法は、露地および簡易雨よけ栽培に適用し、ハウス栽培には適用しません。

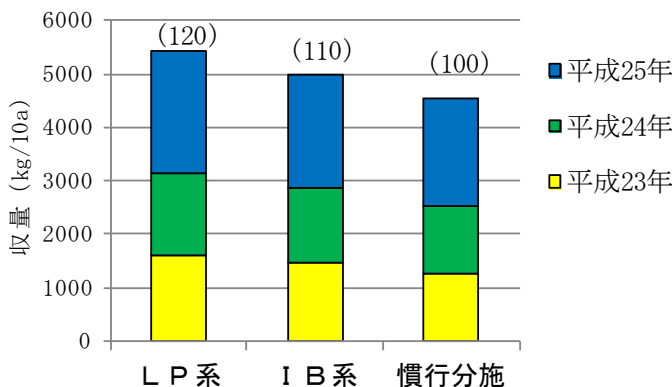


図1 アスパラガスの年次別収量比較

注) () 内の数値は慣行分施区を100とした指数

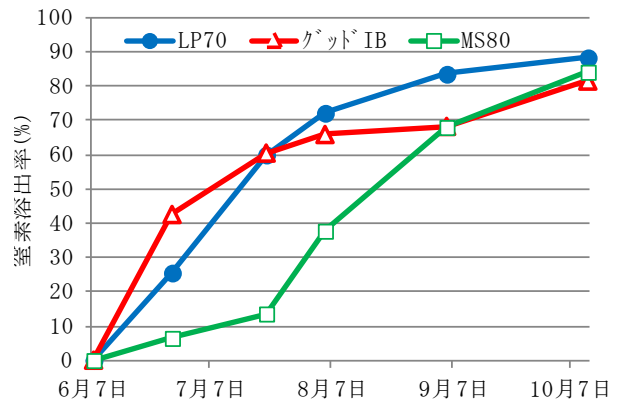


図2 肥効調節型肥料からの窒素溶出率の推移(平成23年)